

守山企業景況調査報告書

(第 65 回)

令和 7 年 10 月～令和 7 年 12 月期 実 績

令和 8 年 1 月～令和 8 年 3 月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和7年10月～令和7年12月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業70社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax、クラウドシステム等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	18	14	77.8%
製造業	14	13	92.9%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	20	17	85.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	70	61	87.1%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和7年10月～令和7年12月、見通しを令和8年1月～令和8年3月とし、調査時点は令和8年1月15日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和7年10月～令和7年12月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和7年10月～12月期の調査結果では、業況、売上高、採算の3指標の数値が上昇した。

<業況>

業況DIは▲13.1で前回調査の▲17.7から4.6ポイント上昇した。業種別では、小売業▲7.1（前回調査比+17.9）、製造業▲23.1（前回調査比+15.4）、建設業41.7（前回調査比+▲58.3）、サービス業▲12.5（前回調査比+18.8）、卸売業50.0（前回調査比+30.0）と建設業以外は上昇した。1月～3月期見通しは全体で▲13.1である。

<売上高>

売上高DIは4.9で前回調査の▲3.2から8.1ポイント上昇した。業種別では、小売業14.3（前回調査比+26.8）、製造業0.0（前回調査比±0.0）、建設業▲27.3（前回調査比▲27.3）、サービス業17.6（前回調査比+17.6）、卸売業16.7（前回調査比+16.7）であり、建設業以外は上昇した。1月～3月期見通しは全体で6.5である。

<採算（経常利益）>

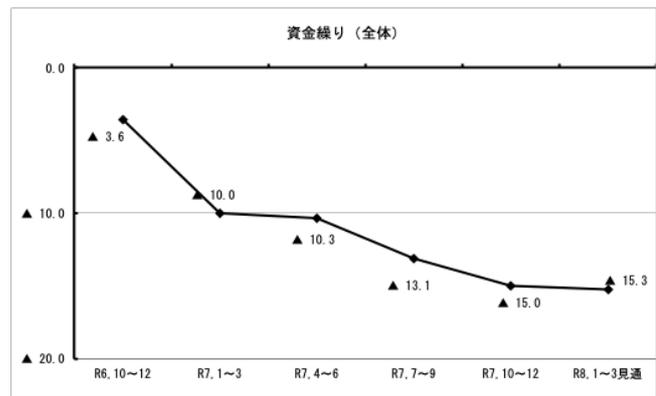
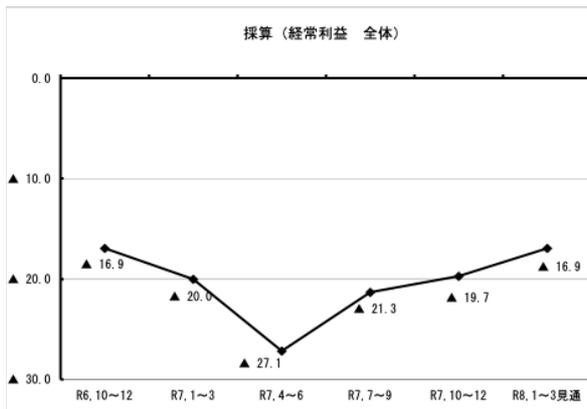
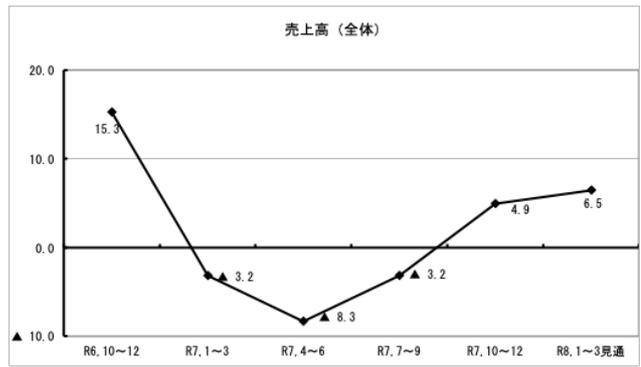
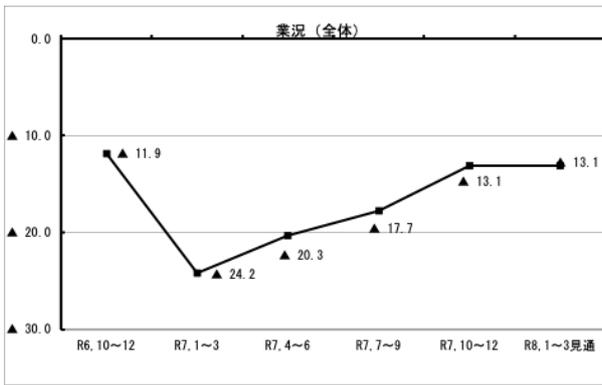
採算（経常利益）DIは▲19.7で前回調査の▲21.3から1.6ポイント上昇した。業種別では、小売業▲28.6（前回調査比+24.7）、製造業▲30.8（前回調査比+7.7）、建設業▲25.0（前回調査比▲16.7）、サービス業▲12.5（前回調査比▲18.8）、卸売業16.7（前回調査比+16.7）で小売業、製造業、卸売業で上昇した。1月～3月期見通しは全体で▲16.9である。

<資金繰り>

資金繰りDIは▲15.0で前回調査の▲13.1から1.9ポイント低下した。業種別では小売業▲7.1（前回調査比+17.9）、製造業23.1（前回調査比▲23.1）、建設業▲54.5（前回調査比▲46.2）、サービス業0.0（前回調査比+20.0）、卸売16.7（前回調査比+16.7）で小売業、サービス業、卸売業で上昇した。1月～3月期見通しは全体で▲15.3である。

その他の意見

- ・原材料の価格がアップしたが、価格転嫁ができていない。（小売業・製造業）
- ・原材料、人件費の価格がアップしたが、価格転嫁ができていない。（建設業）
- ・人材確保が難しいと同時に商品の納期遅延が悪影響をおよぼしている。（卸売業）



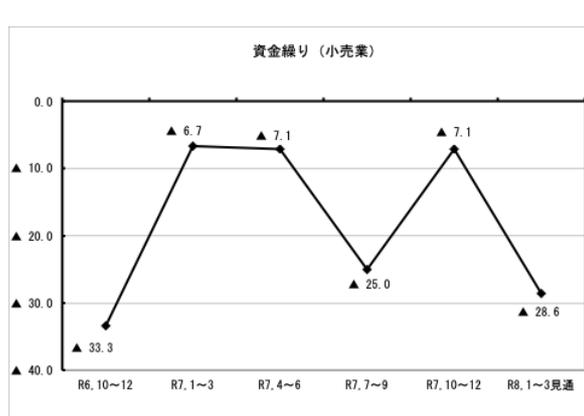
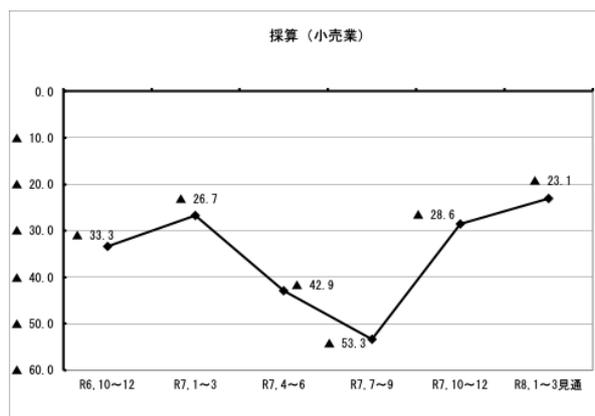
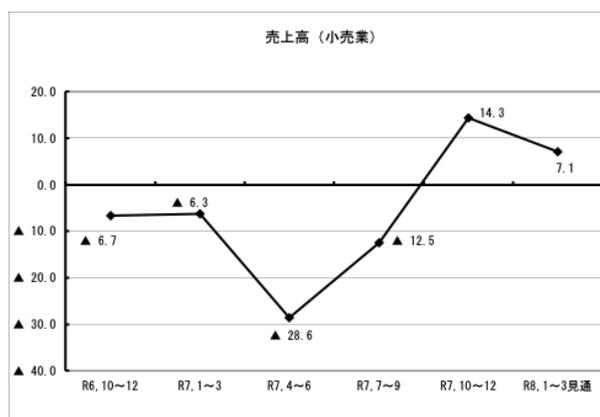
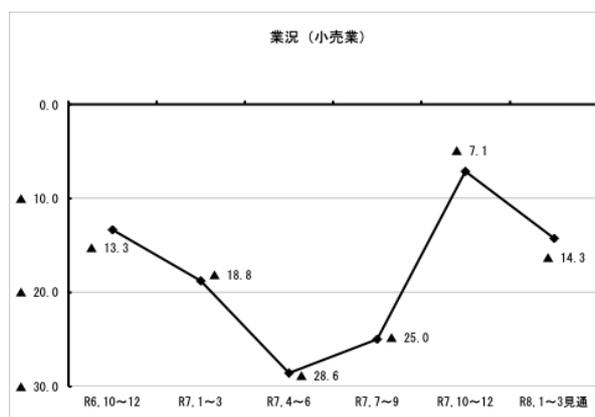
小売業

小売業の業況DIは▲7.1で前回調査に比べて17.9ポイント上昇した。前回に続き2四半期連続の上昇である。▲7.1という数値は令和3年7月～9月期以来の高い水準である。その時は、▲7.7から下がり基調に入り長く低迷したが、今回はどのような動きをするか注目される。1月～3月期見通しは▲14.3と下っている。

売上高DIは14.3で前回調査に比べて2638ポイント上昇した。業況と同じく、2四半期連続の上昇である。令和3年7月～9月期の売上高DIは▲7.7でこのときはプラスにならなかった。今回はプラスの数値となって、売上はよかった事を示している。1月～3月期見通しは7.1と少し下げているもののプラスの数値である。

採算DIは▲28.6で前回調査より24.8ポイント上昇した。前回に2四半期連続の低下した分を取り戻した結果になった。1月～3月期見通しは▲23.1と続けて上昇を予想している。

資金繰りDIは▲7.1で前回調査より17.9ポイント上昇した。前回調査で下げたが今回調査では令和7年内の他の基を同じ程度の数値まで戻した。1月～3月期見通しは▲28.6なので資金繰りの改善は予断を許さないと考えられている。



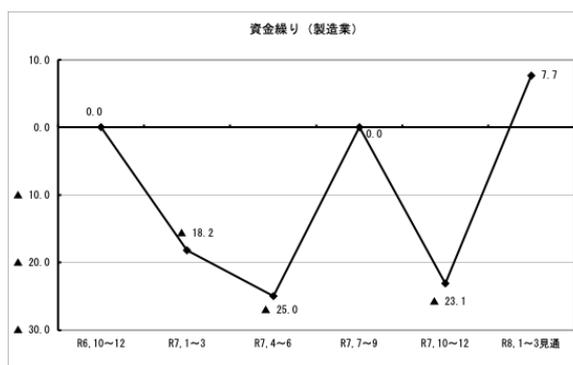
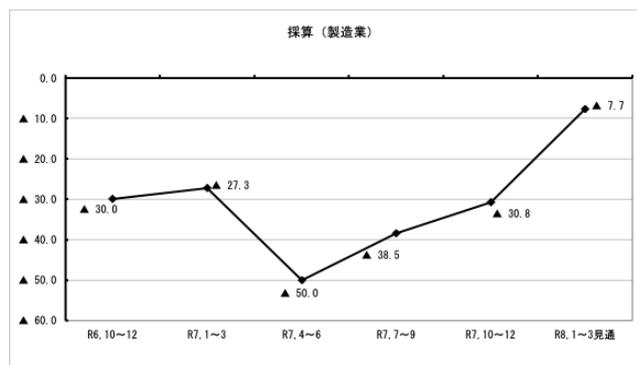
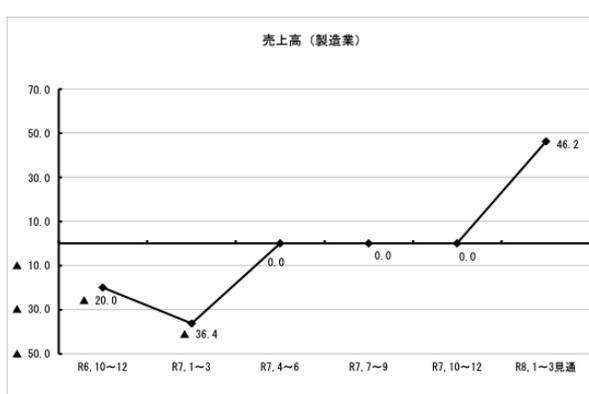
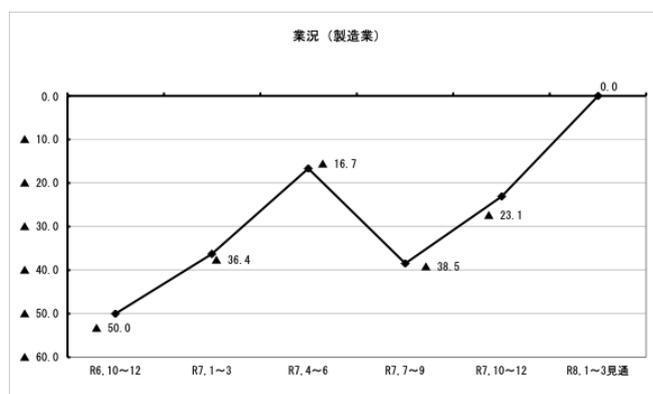
製造業

製造業の業況DIは▲23.1と前回調査の▲38.5から15.4ポイント上昇した。前回調査では低下したものの1年前の令和6年10月～12月期の▲50.0から見ると、上昇のトレンドにあるといえる。それを裏付けるように1月～3月期見通しも0.0とさらに上昇を予想しており、製造業の業況はよくなっていると考えられる。

売上高DIは0.0で前回調査と同じ数値であった。3四半期連続で0.0と安定した動きになっている。ただ、前回調査での見通しが30.8であったので、予想に反して上昇局面に入るのが遅れている。1月～3月期の見通しは46.2と大きく上昇しているため、期待は大きそうである。

採算DIは▲30.8で前回調査に比べて7.7ポイント上昇した。採算は2四半期連続で上昇しており、回復の基調であると思われるが、マイナスの数値であるので安心できない。1月～3月期見通しも上昇して▲7.1で最近の中では高い水準である。

資金繰りDIは▲23.1で前回調査より23.1ポイント低下した。前回調査で0.0まで大きく戻したが、今回調査では戻した分だけ下げてしまった。資金繰りの傾向としては下げ傾向と見える。しかし、1月～3月期見通しは7.7と改善の予想になっている。



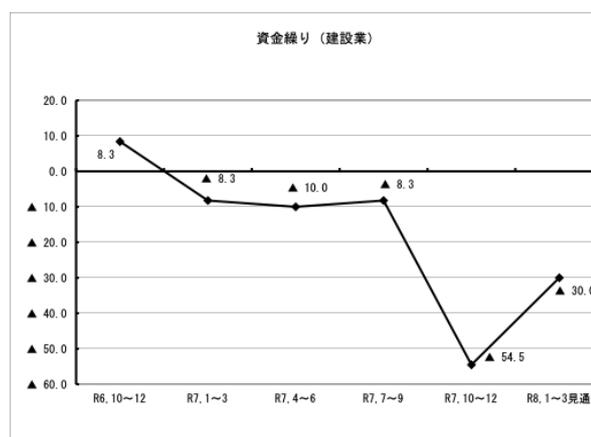
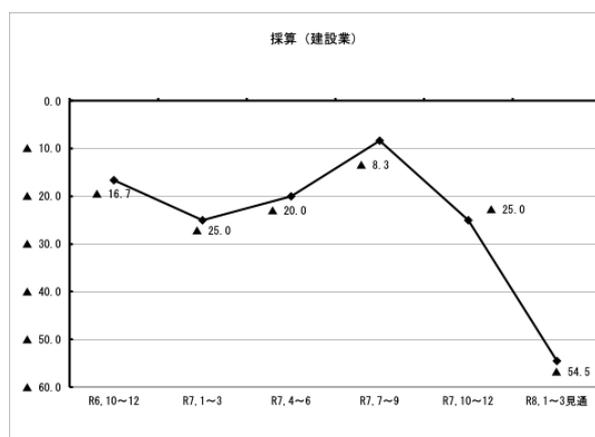
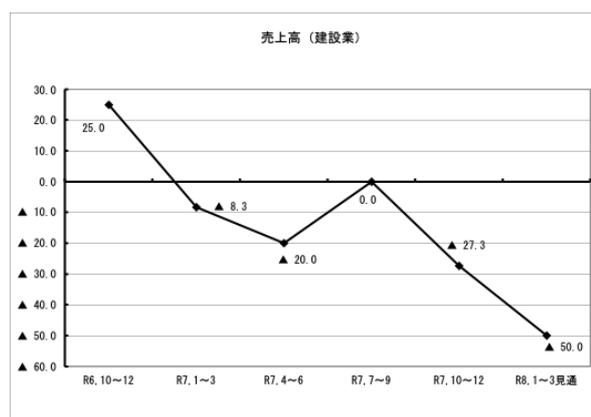
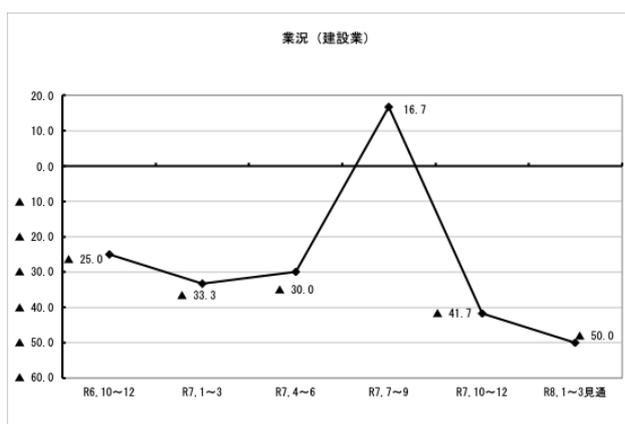
建設業

建設業の業況DIは▲41.7であり前回調査から58.3ポイント低下した。前回調査が高い数値であったが、今回は大きく下げている。前回上昇した分以上に下げているので、建設業の業況は急激に悪化したと考えられる。それを示すように1月～3月期見通しはさらに低い▲50.0となっている。

売上高DIは▲27.3で前回調査の0.0から27.3ポイント低下した。1年前の令和6年10月～12月期が25.0で今回は▲27.3なので1年間で50ポイント以上下げたことになる。前回調査で上昇したものの全体としては低下傾向であると言える。1月～3月期見通しは▲50.0とさらに低くなっている。

採算DIは▲25.0で前回調査の▲8.3から16.7ポイントの低下である。業況、売上高と同じように今回調査では採算も数値が低下した。採算面でも良くない状況であると思われる。また、1月～3月期見通しも業況、売上高と同じように低▲54.5と急落を予想しておりかなり厳しいようである。

資金繰りDIは▲54.5で前回調査に比べて46.2ポイント低下した。資金繰りも他の3指標と同じように低下したが、業況に次いで落ち込み幅が大きかった。過去1年資金繰りは比較的安定した動きであったが今回は前回調査の見通しの▲33.3より大きく低下している。1月～3月期見通しは▲30.0と少し戻している。



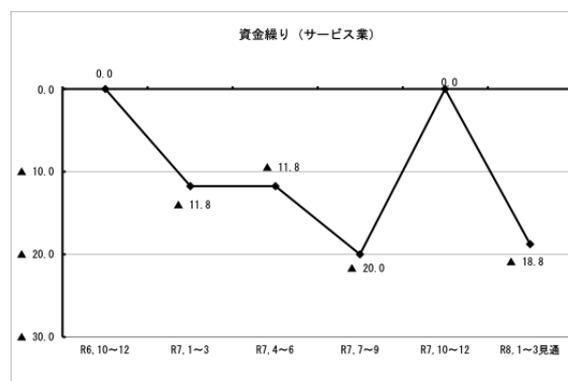
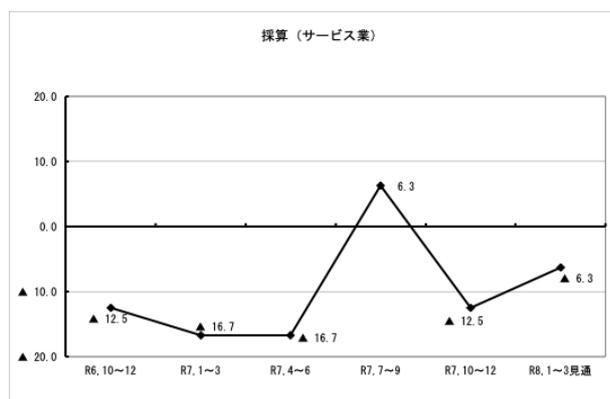
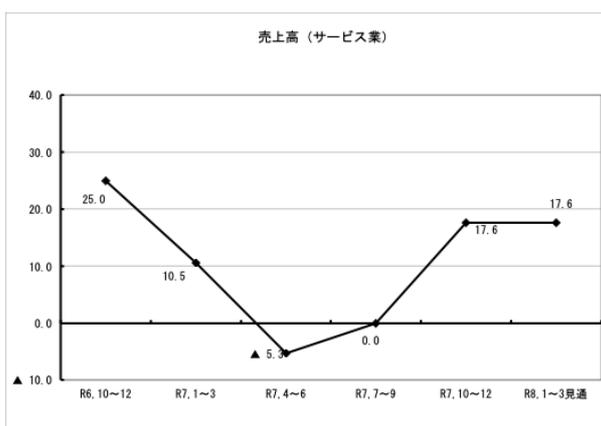
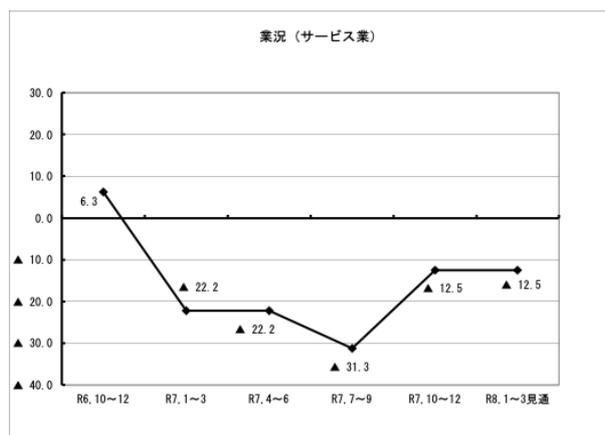
サービス業

サービス業の業況DIは▲12.5で前回調査より18.8ポイント上昇した。前回まで低下基調であったのが今回は上昇に転じている。ただ、前回調査での見通しは6.7であったのでそれには遠くおよび予想よりも上昇は緩やかである。1月～3月期見通しも▲12.5と横ばいとなっており、上昇機運が高まっていない。

売上高DIは17.6で前回調査より17.6ポイント上昇した。2四半期連続の上昇である。令和7年4月～6月期に▲5.3となったがそこを境目に上昇しておりまた、プラスの数値が続いていることから売上は好調のようである。1月～3月期見通しも17.6と好調を維持している。

採算DIは▲12.5で前回調査と18.8ポイントの低下であった。採算は前回調査でスパイク的に上昇したが過去1年間総じてマイナスの数値で低調と考えられる。1月～3月期見通しも▲6.3でまだ回復というところまでは見えない。

資金繰りDIは0.0で前回調査より20ポイント上昇した。前回調査見通しでは13.3と改善が見込まれていた通り、マイナスの数値からは脱した。ただ、前回の予想よりは大きく改善しなかった。1月～3月期見通しは▲18.8で資金繰りは再び悪化していく予想である。



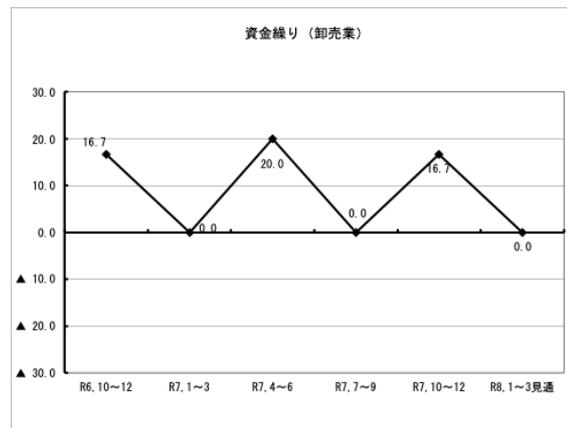
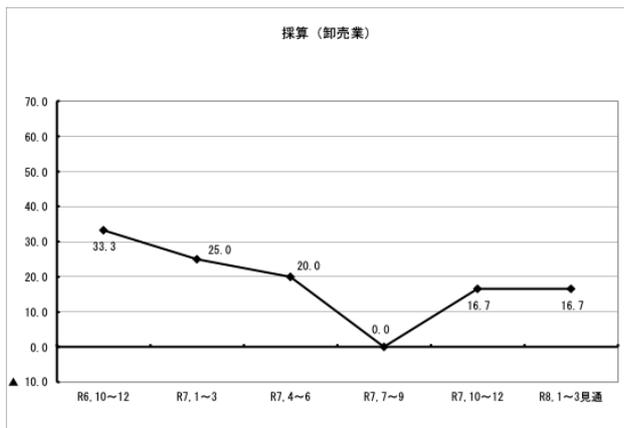
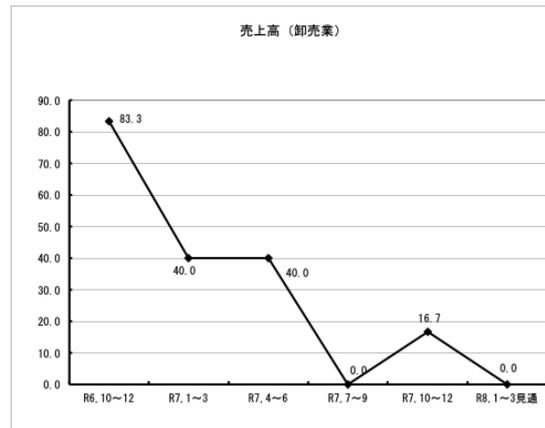
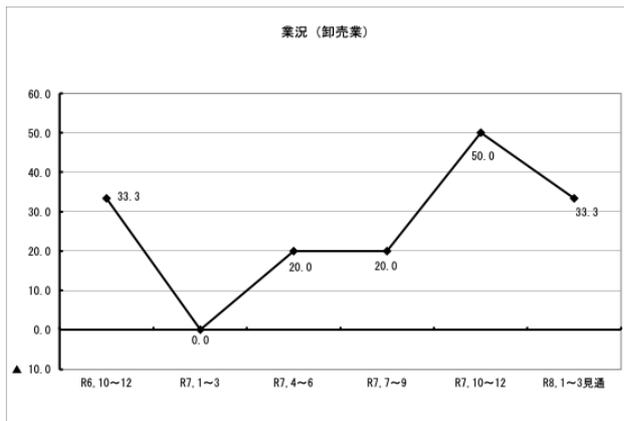
卸売業

卸売業の業況DIは50.0で前回調査より30ポイント上昇した。これで3四半期連続でのプラス数値である。卸売業は過去1年間を見てもマイナスの数値に陥ったことはなく業況は非常に良いと思われる。1月～3月期見通しは33.3で今回より下げているものの悪い数値ではない。

売上高DIは16.7で前回調査より16.7ポイント上昇した。前回調査で0.0まで下げてしまったが、今回は反転上昇している。過去1年間は低下基調であったので今回で回復をしたと言えるのか今後の様子を見なければならぬ。1月～3月期見通しは0.0と下げ予想なので気掛りである。

採算DIは16.7で前回調査より16.7ポイント上昇した。3四半期連続で低下した前回調査から採算は反転した。採算も過去1年間低下基調であったので今回から反転するのか様子を見なければならぬが、1月～3月期見通しが16.7と数値を維持していることから採算は回復を見通せそうである。

DI資金繰りDIは16.7で前回調査より16.7ポイント上昇した。過去1年間を見ると0.0と20.0前後を交互に繰り返す動きをしており今回もその通りの動きとなった。1月～3月期見通しは0.0でその動きはこの先も続きそうである。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	▲ 13.1	▲ 13.1	4.9	6.5	▲ 19.7	▲ 16.9
小売業	▲ 7.1	▲ 14.3	14.3	7.1	▲ 28.6	▲ 23.1
製造業	▲ 23.1	0.0	0.0	46.2	▲ 30.8	▲ 7.7
建設業	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 27.3	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 54.5
サービス業	▲ 12.5	▲ 12.5	17.6	17.6	▲ 12.5	▲ 6.3
卸売業	50.0	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	4.9	▲ 1.7	▲ 3.4	▲ 10.3	1.7	8.5
小売業	▲ 7.1	▲ 7.7	▲ 8.3	▲ 27.3	7.7	7.7
製造業	▲ 7.7	23.1	15.4	15.4	0.0	23.1
建設業	16.7	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 18.2	▲ 10.0
サービス業	0.0	▲ 25.0	0.0	▲ 6.3	0.0	5.9
卸売業	50.0	33.3	16.7	0.0	33.3	16.7

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	▲ 15.0	▲ 15.3	1.9	3.8	3.7	3.8
小売業	▲ 7.1	▲ 28.6	0.0	▲ 10.0	0.0	▲ 10.0
製造業	▲ 23.1	7.7	15.4	23.1	15.4	23.1
建設業	▲ 54.5	▲ 30.0	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 18.2
サービス業	0.0	▲ 18.8	0.0	7.1	7.1	7.1
卸売業	16.7	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0

過去からの動向

